

— 鐵 鋼 ニ ュ ー ス —

科学技術庁の発足

5月16日科学技術庁が設置された。これはわが国の科学技術振興上大きな発展と見られ、今後の正しい効果的な運用が各方面から期待されている。

科学技術庁の任務とするところは、科学技術の振興をはかり、国民経済の発展に寄与するため、科学技術（人文科学のみにかかるものと大学における研究にかかるものは除く）に関する行政を総合的に推進するにある。その権限は（1）原子力の研究、開発利用を含む科学技術に関する基本的政策を企画し、立案し、推進すること、

（2）関係行政機関の科学技術に関する事務の総合調整を行うこと。（3）関係行政機関における試験研究機関の科学技術に関する経費および関係行政機関の科学技術に関する試験研究補助金、交付金、委託費、その他これらに関する経費、見積の方針の調整を行うこと。（4）原子力以外の科学技術で多数部門の協力が必要な総合的試験研究と各種研究に共通する基礎的試験研究について助成を行うこと。（他の行政機関の所掌するものは除く）。

（6）資源の総合的利用のための方策一般に関する事務を行うこと。（他の行政機関の所掌に属するものは除く）

（7）所掌事務の統計、調査資料を作成し、頒布し、刊行すること。（8）発明および実用新案の奨励を行い、これらの実施化を促進すること。（9）所掌事務の周知宣伝を行うことである。

鉄鋼生産長期計画

通産省ではこのほど鉄鋼生産長期計画試案を発表した。これは31年度から50年度にわたる長期対策で、この試案をもとに今後業界の意見をとり入れながら、さらに具体的な実行計画をたてることになった。その骨子は次の通り。

1. 鉄鋼の内需の伸びを毎年6%と推定、輸出は30年に横這いとみて、それに見合うように毎年鉄鋼の生産を引上げてゆく。

2. 40年度末までに高炉を8基～9基増設する。

3. スクラップの輸入はこれ以上期待できないのでスクラップが少なくてすむ上吹転炉を建設するようにもつて行く。

4. 大型の鉬石専用船を建造し、運賃の低下をはかる。またこれにともなつて港湾を整備する。

5. 鋳物銑を確保するため鋳物銑専用的高炉を建設する。

鋼塊生産新記録

4月中の鋼塊生産高は883,236tという戦前戦後を通じて最高の記録を示した。これまでの記録は昨年10月および本年3月の863,000tであつたから20,000tの増産となり、1昨年の月平均646,000tにくらべると約220,000tと飛躍的の大増産である。

このような鋼塊の増産傾向はわが国ばかりでなく世界的なもので、米国でも、西独でも、フランスでも、ベルギーでも、3月の鋼塊生産は最高度に達したと報じられ

ており、おそらく4月もこの状況を続けたことと推察される。

尼崎製鉄高炉増設

尼崎製鉄株式会社では、このほど高炉1基の増設をきめ、同時に焼結機1基、港湾設備などの増強をも行うことになった。総工費は23億円で、高炉の設計は川崎製鉄千葉製鉄所の高炉を設計した西独のパウル・ウオルフ氏に依頼し、5月中に着工、明年5月に完成の予定、新高炉の能力は銑鉄日産600tで現在もつている3高炉（日産400t）と合せて年間360,000tの銑鉄生産となる。

神鋼の連続線材圧延機

神戸製鋼所では12億円を投じ連続圧延設備の完成を急いでいるが、6月一杯で完成、7月より試運転に入る予定である。

この圧延機はスウェーデン、モルガシャーマー社製、付帯設備としての加熱炉は西独テルモ社設計になるもの、また電気設備は富士電機製となつている。この完成後の特長として次の点があげられている。

（1）線材の重量は200～500kgとなり内外径は、500mm～1,400mmまで種々の寸法に巻取ることができる。（2）線材の最小直径5mmでこれまでわが国で生産されていた5・5mm線にくらべ、細い鋼線を経済的に製造することができる。（3）線径公差および偏径差は現在のJIS規格に示されている0・5mmを上回り、0・2mm以下の線径公差および偏径差をもつ寸法精度の高い線材が生産できる。（4）冷却台を設置すれば特殊鋼の丸角または六角鋼および特殊帯鋼の製造ができる。

インドへの鉄鋼輸出増加

本年度から開始されるインドの第2次5カ年計画を控えて、インドの対日鉄鋼輸入は今年に入つて急激に上昇しており、わが国鉄鋼輸出市場として最も期待されている。アルゼンチン市場が期待薄となつた鉄鋼業界は主力をインド市場に求め、新たにカルカッタに輸出組合の駐在事務所を開設する方針を決めるなど積極策を講じている。

すなわち輸出組合の調査によると、インドにおける対日鉄鋼輸入は2月1日から4月15日までの75日間一般鋼材176,800tの成約を見ている。主要品種としては軌条および付属品114,300tをはじめ、厚板25,500t、丸棒15,700t、ティンバー10,000t、亜鉛鉄板3,000t、山形鋼2,700t、不等辺形鋼700tなどとなつている。

さらにインドの最近における鉄鋼貿易につき鉄鋼連盟の調べたところによると、輸入は1953年に219,141tであつたのに対し、54年は343,702t、55年は689,654t（ロングトン）と大巾に増大している。品種別に見ると鋼板、鋼管、軌条、棒鋼、鉄線、形鋼、鋼塊、半製品、ブリキ、枕木などである。その輸入先について見ると日本が第1位で149,000t次いで英国の106,000t、米国77,000t、西独26,000t、ベルギー12,000t、豪洲6,000t（ロングトン）の順序となつている。